

平成 22 年 2 月 15 日

町民各位

御船町長 山本 孝二

御船町の竹バイオマス事業における経緯と町の意向について

このことについて、新聞、テレビ等で町民の皆様にご心配や不安感を与えていると思いますので、下記により事業の経緯等を説明いたします。

記

本事業は、平成 22 年春の操業開始を目標に平成 20 年の秋、国の交付金事業として申請、同年 12 月交付決定を受け、事業着手しました。

実施主体：御船竹資源開発株式会社

計画主体：御船町

資金計画

全体事業費約 20 億円 国からの補助金約 10 億円（事業費の 1/2）

残りの 1/2 は自己資金として政府系金融機関からの融資

御船竹資源開発株式会社が実施主体で行う本事業は、自己資金確保のため政府系金融機関と交渉していました。しかし、残念ながら融資ができない旨の連絡があり、会社側は別の融資機関等に交渉を行ってききましたが、未だ自己資金の確保ができない状況にありました。

計画主体でもある町はその状況を解決するため、竹の安定供給に伴う搬入・搬出作業の状況把握と調査、更には取引先との覚書を交わすなど、この事業の運営が継続的に成り立つことの確証を取るなど、融資の確保に向けて会社と共に鋭意努力して参りました。

そして先般（1月15日）、町が資本参画して会社の信用力を上げ、求心力を高めることが事業継続の上で重要であると考え、町も 3,000 万円の資本参画することを議会に上程し、賛成多数で可決されました。

そのような中、国の交付金事業を継続する手続きの期限（2月1日）もせまり、会社としては役員総力を挙げ資金確保に努力されていますが、交付金事業として継続する時間間に合わず、今日現在（2月15日）で断念するに至りました。

しかし、会社側はどうしてもこの事業をやり遂げたいとの意志は固く、交付金事業に頼らない民間ベースで事業存続に向け、現在も資金確保や事業成功に向けて鋭意努力されているところです。

このような状況を心配される住民の方々、また事業内容についてマスコミ等でも取り上げられるなど、町民の皆様方には大変ご心配をおかけしております。会社側としても資金調達に奔走されるなど、事業成立、成功に向けて精一杯努力されていますので、今しばらく事業の進捗について、静観していただければと思います。

放置竹林の解消（里山の再生）と地域活性化策としての住民の期待や要望は高いものがあることを十分承知して、御船竹資源開発株式会社の創業の目途が一日も早く達成されることを私も願ってやみません。

今後の経緯や結果については、逐次報告いたします。